



曲亭馬琴作

宮戸河三社網船

歌川豊國畫

福壽海より出現して無量感應の利益を施し金龍山に光を發して慈眼
 視衆生の誓尊し。浅草寺のむろしく三社の縁起を種として實に
 出と賽方便と亦六冊のあみ船でもあつり物と及びあるを筆に
 うけて姿見の姥が池よりいと浅き凡夫の智恵の矢隨身門前編
 後編のこのけ形る趣向に二さち。むらん石の枕も動ざぬ千代乃
 とどろふ先のまむ春の駒形鬘雷注連の内田銘酒と同名宮戸河
 との題をいとも都鳥より仙禽鶴屋を懇辞するやうなあり。壁の馬道
 乗かけて一夜つけたる急業あぐら。世間あゝ木の時代世話十社の草薙
 鎌倉管領崩谷あゝ末廣巷路山の驛々咲初て白の千本の花川戸
 その櫻木子刺本の吉例かゝるに戲きて述

文政四年辛巳春正月吉日

曲亭馬琴





笛の
きる門の
つる作
妙風

ふろれくそ
くや
あさくらん

濱成二郎が妻
苦屋

薩埵丸



春
くきて
野の
花は宿か
浅草寺のひらめ
屋中稲茂

孤屋の女兒
手枕

蒼田左衛門大夫持次





乃家ひの
 偶
 浅漬桶の
 縄も
 壁石の
 きこま

孤館の姥
 伊波保



水底ふらふら
 花の影えんねを
 りづきあやえんと
 こたて
 折らぬ

敷
 の嶋
 方



長尾判官景春
 敷嶋の方



雲くも入いる
鳥とり入いる
五ご衰せのの涙なみだ地ぢ小こ落おふふああと

右みぎ八はち首くび作つく者もの
自みづか賛かん

武ぶ成せい大だい郎らう



かかるるととた
けけととせ
のの別わかれ
ううととえ
かかひひて
ああががままの
ああのの世よささののせせぶぶ

山やまのの関せきの
翠すい天てん

紫むらさ微び宮みやのの仙せん嬪ひん
玉たまのの天てん女にょ

武ぶ成せいかか獨ひとり子こ
細こま松まつ

つえよ十よ二の(二)ちのれ物倍る

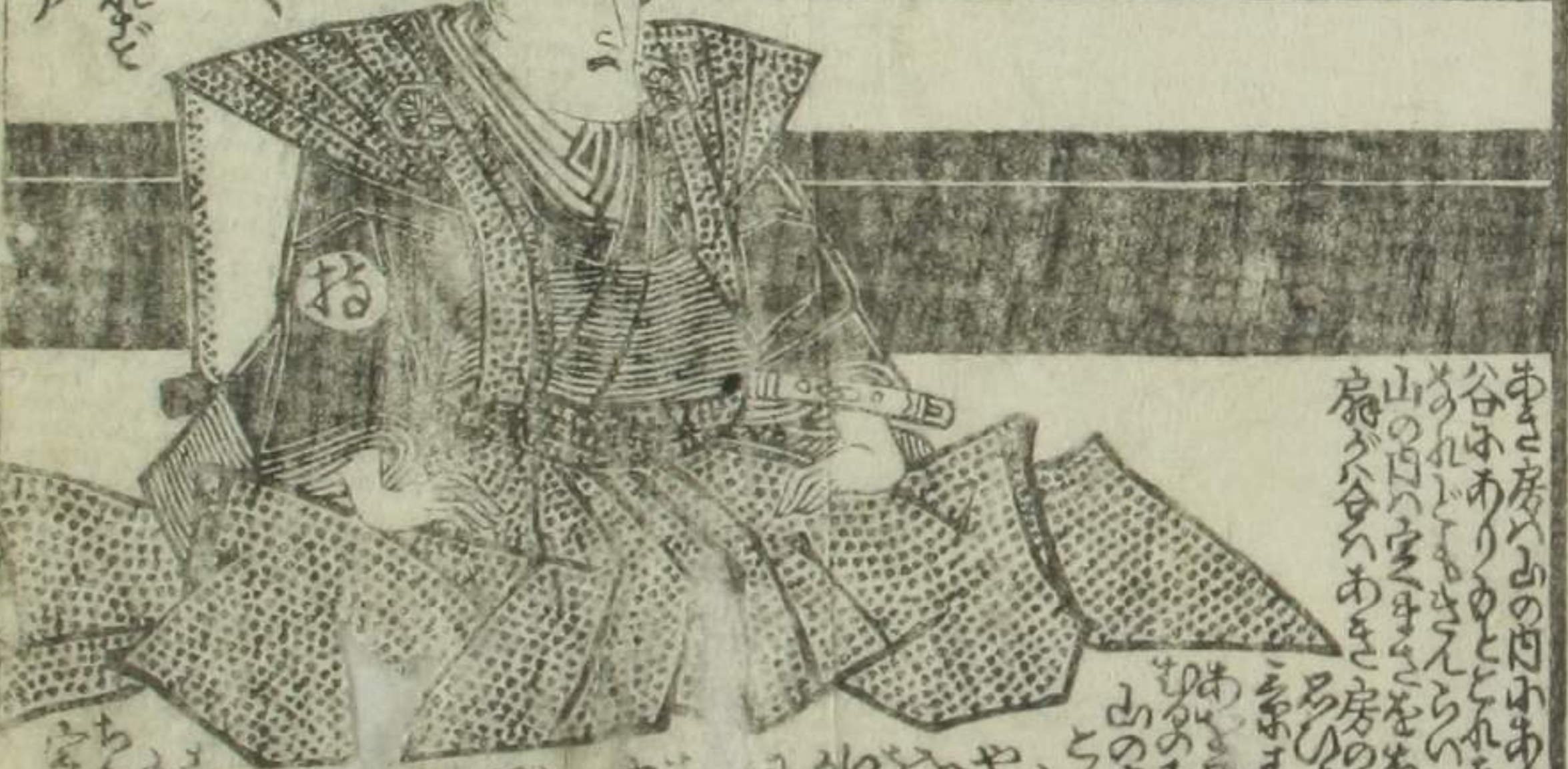








Handwritten text on the left side of the top illustration, including the characters 'おのゝ' and 'おのゝ'.



Handwritten text on the left side of the bottom illustration, including the characters 'おのゝ' and 'おのゝ'.

Large block of handwritten text at the bottom of the left page, starting with 'おのゝ' and 'おのゝ'.



Large block of handwritten text on the right side of the top illustration, including the characters 'おのゝ' and 'おのゝ'.



Handwritten text on the left side of the middle illustration, including the characters 'おのゝ' and 'おのゝ'.



Handwritten text on the left side of the bottom illustration, including the characters 'おのゝ' and 'おのゝ'.

Large block of handwritten text on the right side of the bottom illustration, including the characters 'おのゝ' and 'おのゝ'.

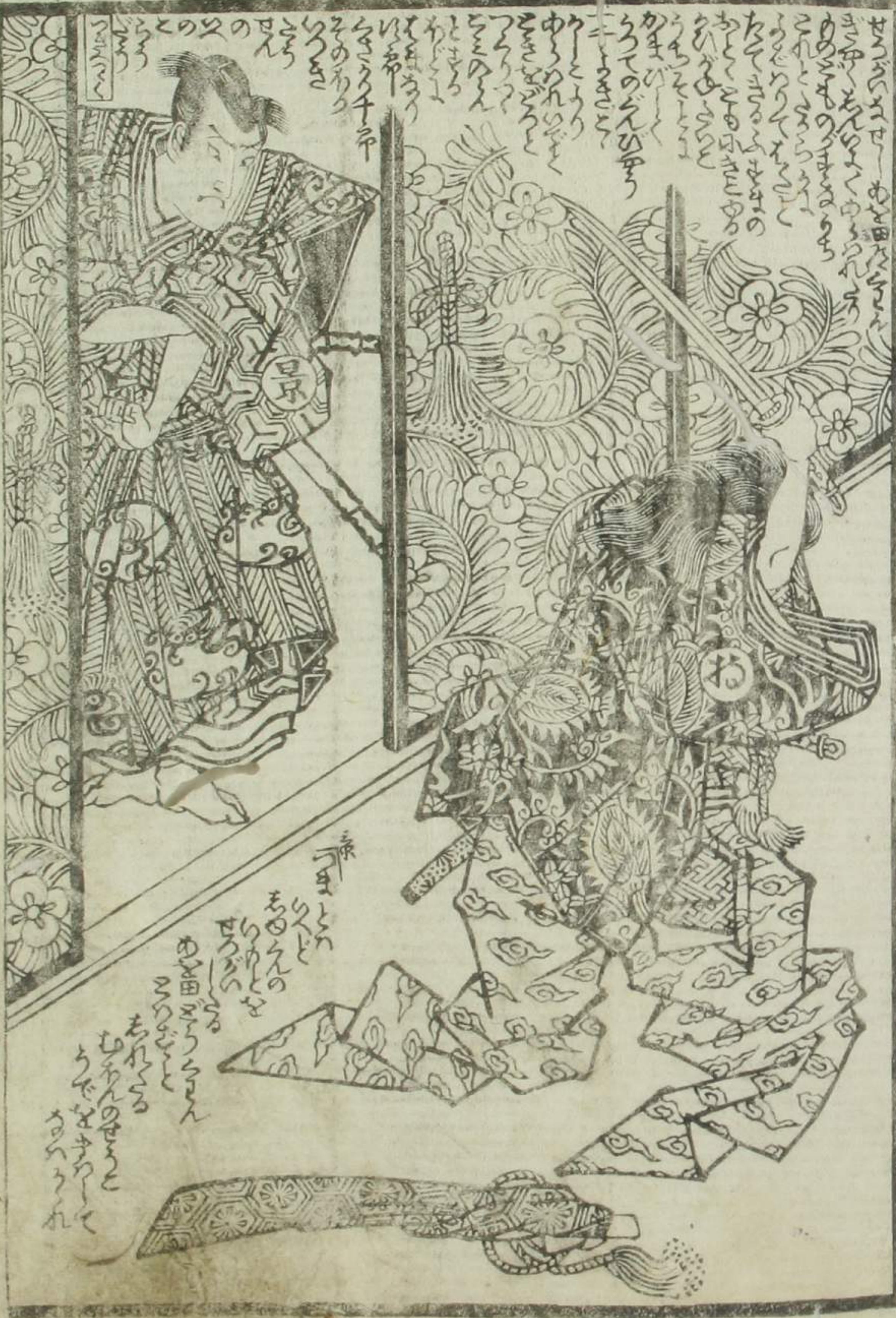












此の人の
 姿は
 いかゞ
 なるか
 と思ふ
 事あり
 けり
 夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし
 夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし

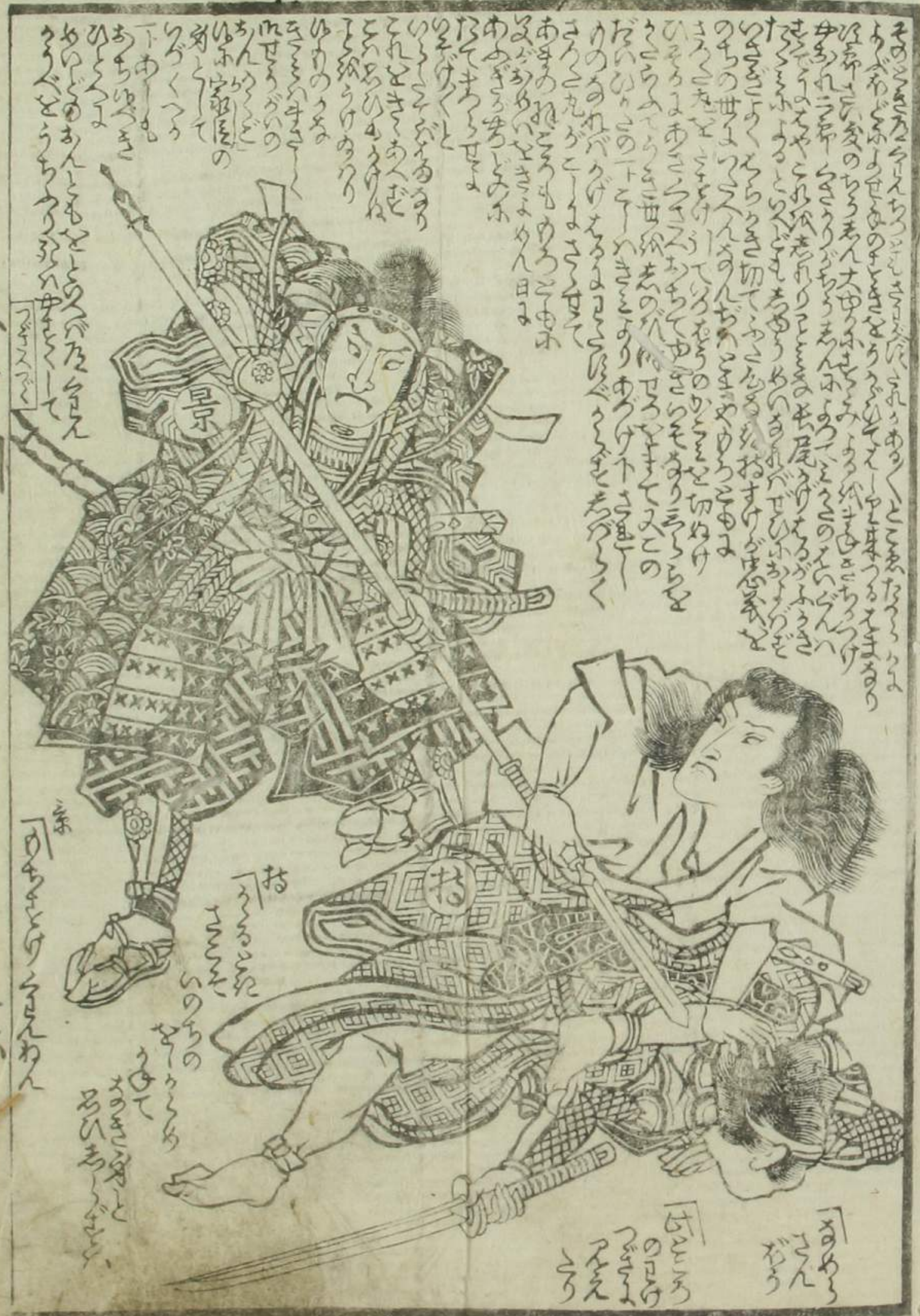
夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし
 夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし



此の人の
 姿は
 いかゞ
 なるか
 と思ふ
 事あり
 けり
 夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし

夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし
 夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし

夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし
 夫れ
 こそ
 世に
 稀なる
 人なり
 といふ
 べし



馬琴作



トシノ
ハシ

あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち

あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち

あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち

あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち



あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち

あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち

武
あつちのうしろに半ばあつち

あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち
あつちのうしろに半ばあつち

「タアリ



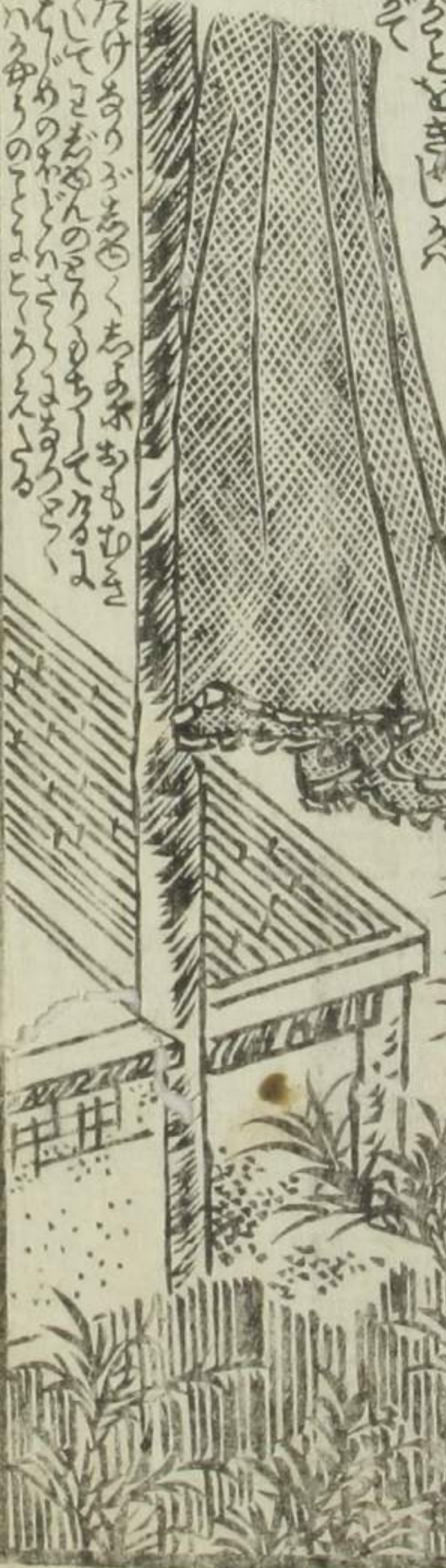
Chapter II

山崎闇斎の書齋にて
主人と客との対話
主人曰く余は此の書齋にて
日々書を讀みて餘りなく
客曰く是れは余の志す如く
はなはだ宜しき事なり
主人曰く是れは余の志す如く
はなはだ宜しき事なり
客曰く是れは余の志す如く
はなはだ宜しき事なり



山崎闇斎の書齋にて
主人と客との対話
主人曰く余は此の書齋にて
日々書を讀みて餘りなく
客曰く是れは余の志す如く
はなはだ宜しき事なり

山崎闇斎の書齋にて
主人と客との対話
主人曰く余は此の書齋にて
日々書を讀みて餘りなく
客曰く是れは余の志す如く
はなはだ宜しき事なり



山崎闇斎の書齋にて
主人と客との対話
主人曰く余は此の書齋にて
日々書を讀みて餘りなく
客曰く是れは余の志す如く
はなはだ宜しき事なり



山崎闇斎の書齋にて
主人と客との対話
主人曰く余は此の書齋にて
日々書を讀みて餘りなく

Handwritten text in a cursive script, likely a transcription of a play or a commentary, located at the top of the right page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the right page, possibly describing the scene or the character.

Handwritten text in a cursive script, located at the top of the left page.



Handwritten text in a cursive script, located at the bottom of the left page, possibly describing the scene or the character.

Handwritten text in a cursive script, located at the very bottom of the left page.

「おんあまのこゝろを
あはれみたまへ



「おんあまのこゝろを
あはれみたまへ

「おんあまのこゝろを
あはれみたまへ

「おんあまのこゝろを
あはれみたまへ



「おんあまのこゝろを
あはれみたまへ

「おんあまのこゝろを
あはれみたまへ

あけつてふらふら入らなむひの
 はやわらふ夜あまのついで
 あはれいしはまはたうら
 ひらふのそむいとも
 へんこ丸と小丸のまじり
 りかんとせんとまはたうら
 とついでとせんとまはたうら
 あはれいしはまはたうら
 のりまはたうら
 さう丸とせんとまはたうら
 たらまはたうら
 うせふらうら
 すれなる
 うせふらうら
 あやうらうら
 あつひさうら
 ひさうら
 さう丸とせんとまはたうら
 うせふらうら

あはれいしはまはたうら
 のりまはたうら
 さう丸とせんとまはたうら
 たらまはたうら
 うせふらうら
 すれなる
 うせふらうら
 あやうらうら
 あつひさうら
 ひさうら
 さう丸とせんとまはたうら
 うせふらうら

あはれいしはまはたうら
 のりまはたうら
 さう丸とせんとまはたうら
 たらまはたうら
 うせふらうら
 すれなる
 うせふらうら
 あやうらうら
 あつひさうら
 ひさうら
 さう丸とせんとまはたうら
 うせふらうら

あはれいしはまはたうら
 のりまはたうら
 さう丸とせんとまはたうら
 たらまはたうら
 うせふらうら
 すれなる
 うせふらうら
 あやうらうら
 あつひさうら
 ひさうら
 さう丸とせんとまはたうら
 うせふらうら

あはれいしはまはたうら
 のりまはたうら
 さう丸とせんとまはたうら
 たらまはたうら
 うせふらうら
 すれなる
 うせふらうら
 あやうらうら
 あつひさうら
 ひさうら
 さう丸とせんとまはたうら
 うせふらうら

あはれいしはまはたうら
 のりまはたうら
 さう丸とせんとまはたうら
 たらまはたうら
 うせふらうら
 すれなる
 うせふらうら
 あやうらうら
 あつひさうら
 ひさうら
 さう丸とせんとまはたうら
 うせふらうら



此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...

此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...



此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...

此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...
 此の如くは...





豊國画○馬琴作



宮戸河三社網船 全六冊 歌曲亭馬琴作
歌川豊國画

滑稽旅賀羅壽二編 全六冊 十返舎一九作
歌川豊國画

源氏山小金軍配全六冊 月光亭笑壽作
勝川春扇画

花柳街寄戀白浪金冊 一筆庵可候作
漢齋英泉画

小野小町 桃花流水金冊 同
鶴屋喜右衛門板

一代記 娘金平昔繪草紙 全六冊 柳亭種彦作
歌川國貞画

島田の黒本 唐人鬘今國性爺 全六冊 柳亭種彦作
歌川國貞画

前無の赤本 鶴屋白粉

此海入心...
...の...
...
...

小...

